教師用発問サポート資料

1　使用するプリント　コク×スク　レベル 2-2　意見と根拠の関係を理解する

2　単元の目標

(1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

〔知識及び技能〕(2)ア

(2) 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。　〔思考力，判断力，表現力等〕２学年　A 話すこと・聞くこと(1)イ

(3) 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。　〔思考力，判断力，表現力等〕２学年　A 話すこと・聞くこと(1)ウ

3　学習の流れ

【①導入】自分たちの日常生活を振り返り、意見を述べたり書いたりする際に、適切に根拠を用いているかどうかについて、考えるきっかけを与える。

少し前にお店でお寿司を食べている時に、隣に座っている外国の観光客の方に、「なぜ、お寿司に醤油をつけて食べるのですか。」と聞かれ、私はつい「みんながつけているからです」と答えてしまいました。今改めて考えてみると、適切な根拠を用いて説明できていないと感じています。では、このような問題を解決していくためにどうすればよいか、次の問題を解きながら、一緒に考えてみましょう。

【②展開】個人で問題を解く（15 分程度）。その後、全員で答え合わせを行う。

★10 分ほどが経過したら、立ち歩いて話し合ったり、わからない部分を話し合ったりするよう助言する。

★考え方がわからない生徒には挙手をさせ、適宜助言を行う。

〈問１　助言の参考〉

ここでは、アオイがどのような展開で話を進めているかがポイントです。「アオイの発表資料」と「アオイの発表」をよく比べてみましょう。

まず、スーパーなどの施設を作ることを提案しています。

それから、理由を説明しているようです。

そうですね。アオイさんは身近な具体例を用いていることも発表のポイントですね。では、資料①～③を使う順番に並び替えてみましょう。

〈問２　助言の参考〉

選択肢を見ると、「頭括型・双括型・尾括型」とそれぞれ書かれていますね。これは、話し手の提案や意見が、話の構成のどこでまとめられているかを聞いている問題です。問１の問題も参考にすると、アオイは話のどこで提案を述べているでしょうか。また、ワカバはどうでしょうか。

教師用発問サポート資料

〈問３　助言の参考〉

今日の導入でも話をした、「意見と根拠」に関する問題ですね。「意見」についてはこれまでの問題でもまとめてきたのでわかりやすいと思いますが、それぞれの発表の中でどの部分が「意見」になるかわかりますか。

ここでは、発表の中の「提案」の部分だと思います。

そうですね。では、それを支える「根拠」ってどんなものでしょうか。根拠は「実際に起こった出来事」、「科学的な調査の結果」や「データ」など、どの人にとっても同じ事実と、「～だから」の部分にあたる「理由付け」が大事になります。つまり、根拠＝(事実)＋(理由付け)とも言えます。もう少し詳しく言うと、例えば導入のお寿司の話で考えると、「醤油にはうまみ成分が含まれていて(事実)、醤油を付けることで魚の旨味がより引き立つから(理由付け)だよ。」のように、答えればよかったということです。それでは、アオイとワカバの話から、それぞれ「事実」と「理由付け」を見つけてみましょう。

〈問４　助言の参考〉

発表の際に緊張して資料を出し忘れてしまうこともありますね。ワカバはどのタイミングでこの資料を使おうとしたのでしょうか。まずは、出し忘れた資料に書かれている内容を捉え、それから「ワカバの発表」を確認してみましょう。

【③まとめ】今日学習した内容を振り返る。

今日の学習では、意見と根拠について学びました。今日の学習から、どのようなことを学びましたか。また、どんな力が身につきましたか。

適切な根拠を用いると、自分の意見により説得力が増すことがわかりました。

自分の意見と「事実」を分けるための考え方がわかりました。

「事実」はよくわかるけど……。「理由付け」が難しいです。

そうですね。今回の学習で身につけた力を生かすと、自分の意見や考えにより説得力が増してきますね。また、「事実やデータ」を自分の考えであるかのように引用して文章を書いてしまう人がいることが問題視されたニュースを先日見ました。こういった区別もできるようになっていきましょう。

「理由付け」って難しいですよね。みなさんの文章を読んだり、話を聞いたりしていると、「理由付け」がないことが多くあります。大人でも「理由付け」がない人がいますが、そうするとやはり聞き手や読み手の中に「疑問」や「不明」な部分が残ってしまうので、意識して「理由付け」まで丁寧に表現できるようになりましょう。

４　指導のポイント

○【①導入】では、意見と根拠の関係を適切に説明できるような事例をいくつか挙げられると生徒も理解しやすくなる。教科書の説明等を参考に具体例をいくつか考えておくとよい。

５　ほかに考えられる使用方法

○このサポート資料を事前に読んだ上で、「意見と根拠」を扱った単元で授業を実施する。授業後、「コク×スク　レベル 2-2」を単元テストとして使用し、定着度を測るために使用することもできる。その際は、【②展開】だけを取り上げて 20 分程度の解説の時間を設け、導入部分を補足的に扱うとよい。また、授業展開例としては次のものが考えられる。

私たちが考える「より良い『町(学校)づくり』の提案」

「コク×スク　レベル 2-2」にあるような学習課題を設定し、また、ワカバとアオイの発表のようなイメージを生徒と共有し、授業を行う。その際、〔思考力，判断力，表現力等〕は、Ａ話すこと・聞くことの(1)イ・ウを扱うことが考えられる。生徒の自由な発想を引き出しつつも、「根拠」がどのように「意見」と関連しているのかを十分に吟味するような授業を展開したい。